

ら、その人らしい、その人に合った生活を一緒に考え、心地良く快適に生活することができるよう、福島育成園スタッフ全員で日々の支援を行ってまいります。

最後になりますが、平成11年に福島第一育成園(入所)・福島第二育成園(通所)が開所し20周年を迎えることができました。これもひとえに福島育成園を利用していただいている(今まで利用していただいた)利用者の皆様やご家族の皆様、また温かく見守ってくださる地域の皆様のお力添えのおかげです。本当にありがとうございます。今年度はいろいろな意味で節目の年と考えております、5月からは令和元年になりますが、よろしくお願いいたします。

ビーンズ 管理者 瀬川 慶



ビーンズ管理者を拝命しました瀬川慶です。

福島区内にあるグループホーム「ビーンズ」は、昭和の薫り漂う長屋を改修した住居と平成に建築された賃貸マンションの計3つの住居があります。男性10名と女性5名が生活を送られています。日中の活動は生活介護や就労継続支援B型を利用される方や、一般就労の方がおられます。平均年齢は54歳です。今現在、命を受けて生活している日本人

の平均年齢は47歳との統計があり、やや高齢化にはあります。また、過去に14名が福島育成園で入所生活を送られておりました。地域での生活に移行された後も、日々の生活を通して経験を積み重ねられている人生の達人の方々です。

さて、昨年度は6月の大阪北部地震や9月の台風21号の影響により、何気ない平和な日々の生活が一瞬で破壊される恐れに晒されました。被害に遭われた会員様におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。ビーンズへの被害は幸いなことに、人にも建物等にもありませんでした。「平」の字には～おだやか、やすらか～の意味があります。平穏な日々の暮らしのありがたみに感謝して、災害に対する備えも十分に行う所存です。

また、高齢化により病院受診や介護保険に関連する業務が増えております。加齢に伴う身体的・精神的な変化と上手に付き合い、ご本人の望まれる生活の実現に向けて地域の医療・福祉関係者等との連携を深め

て日々の支援を行います。

福祉制度は昭和の措置制度から平成で契約制度に変わり、時代は平成から令和へ変わります。制度や時代が変わろうとも、支援の本質や理念は変わることがありません。障がいのある人が安心して心豊かに過ごせるよう邁進致します。今後共ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

全国手をつなぐ育成会フォーラムに参加して

港第二育成園 管理者 窪田 真一

3月7日・8日に東京で行われました2018年度全国手をつなぐ育成会フォーラムに参加してまいりました。初日は『意思決定支援』と『高齢障がい者支援』をテーマにしたフォーラムが行われ、2日目は厚生労働省・文部科学省からの行政説明が行われました。初日に行われましたフォーラムから印象に残った項目や気になった点を抜粋してご報告させていただきます。



まずは全国手をつなぐ育成会連合会政策センター委員・『手をつなぐ』編集委員でもあります平塚市福祉総務課の又村あおい氏より、制度の概要説明がありました。30年度より地域生活を支援する新たなサービスとして自立生活援助事業がスタートしました。障がいのある方が安心して地域で生活することができるよう、グループホーム等地域生活を支援する仕組みの見直しが求められています。集団生活ではなく賃貸住宅等における一人暮らしを希望する障がいのある方の中には、理解力や生活力等が十分でないために一人暮らしを選択できない人がいます。自立生活援助とは障害者支援施設やグループホーム等から一人暮らしへの移行を希望する方について、本人の意思を尊重した地域生活を支援するため、一定の期間にわたり、定期的な巡回訪問や随時の対応により、障がいのある

平